

## 【資料A】 パネルディスカッションの記録

時間 80 分間

パネリスト 西尾市立西尾小学校教諭 倉知 雅美 高浜市立高浜小学校教諭 甲斐 由美  
大府市立大府中学校教諭 近藤 肖匡 県立豊田東高等学校教諭 川本 義博  
県立豊川養護学校教諭 天野 泰利  
コーディネーター 総合教育センター研修部長 東野 真志

### C : ① 研究・研修を進める上での取組の工夫，教職員への働きかけはどのように？

#### 豊川養護（天野）

- ・話し合いの場を多く設定していることから意見が活発に出るようになった。
- ・話し合うことで「ねらい」や「手だて」についての共通理解を図り，どの担当者でも同じような支援・言葉掛け・評価ができるように心がけている。
- ・話し合いの中では，同感するだけでなく「ゆさぶり」をかけ，話し合いが活発になるようにしている。
- ・経験が少ない先生も，あえて考えてもらうように問いかけをしている。
- ・みんなで考えるプロセスを大切にしている。



#### C : 「ゆさぶり」とは？

- ・話し合いの雰囲気「同感」「同感」となった時に，問いかけている。  
具体的には，作業中，生徒に私語が見られたが，作業ができていたのでOKではないかという雰囲気になった。そこで，作業は基本的に静かに行うものではないかとゆさぶったところ，もう一度評価を見直そうということになった。

#### 豊田東（川本）

- ・主任としての自分の思いを会議の中で伝えるようにしている。
- ・ある担任が「プラン別説明会」を夏休みに行ったらどうかと提案したところ，やってみようという雰囲気になった。
- ・意見を言いやすい雰囲気も大事だが，出た意見に対し，きちんと実行できた時は，言った教員は「言ってよかった」と感じるだろう。生徒にとってもそれはよい結果となることが多い。

#### C : 今年学年主任だが，その立場で特に心がけていることは

- ・生徒の指導に直にあたる担任の先生方に，自分の考えをいかに伝えるかをいつも考えている。

#### 大府中（近藤）

- ・公開現職教育・・・若手が講師となって職員全員が学ぶ機会にしている。
- ・教務主任と連携・・・初任者の授業を全職員が参観し，一緒になって「授業」について考える機会にしている。
- ・自主研修会・・・外での研修会で学んできた若手が増えてきた。自分だけのものにするのではなく，職員で共有



し還元していく場になっている。聞きたい者が聞くかたち。

**C：実際、学校を訪ねて現職教育（校内研修会）を参観したときの印象は、近藤先生はアイデア豊富だが、「黒衣」に徹しているように見受けた。どう意識しているのか？**

- ・若い先生が増えてきているので、若い先生が自分で伝えたり、表現したりする部分をあえてつくっていくことが大事かなと思う。
- ・自分が出てしまうと、「やらされている感」につながり、いいイメージでなくなるのではと考え、若い先生に「舞台」を譲っている。

高浜小（甲斐）

- ・三部会（学年を縦で割ってつくる、ベテランの部会、少経験者の部会、中堅の部会）を立ち上げたこと。立場、経験年数が近い者同士での部会になっている。
- ・教務との連携がとても密になってきた。教務と研究主任が分担して研究を進められるよう工夫してもらっている。

**C：具体的な例としては？**

- ・子どもの主体的な姿を研究主任としての捉えと教務主任としての捉えというように、両方を載せた資料を職員向けに教務主任が作成してくれた。今までは、教務からだけの視点で配付されていた。声をかけられ、一緒に進めているという感じがうれしい。

**C：教務主任とのコラボしたメッセージが発せられたのですね。**

西尾小（倉知）

- ・校長先生の「町学習」に対するビジョンが明確（E S Dの視点で町学習を再構築しようというビジョン）
- ・この研究を職員にどう伝えるか、職員にどう実践していってもらえるかを考えてきた。
- ・4月、各学年に「町学習」の単元をどうしていくのか、考えてもらった。
- ・8月に、実際作ったものはどうかと点検し、今実践してもらっている。
- ・3月の現職で、E S Dの学びはできているのか、振り返ってもらう予定。

**C：訪問した時の印象だが、わりと校長先生は控えられていた感じ。教頭先生が、「もっと校長先生と話をして…、校長先生は待っているよ」と言われたことが記憶に残っている。**

**C：② 先生方にとって、頼りになる「相棒の存在」はどんな方ですか？**

西尾小（倉知）

- ・環境部の部長のベテラン女性教諭
- ・賛成もしてくれるが否定もしてくれる。研究が自分一人の考えで進んでいくと心配なので、ありがたい。ただその「否定」は、子どもの学びが根底なので、安心して頼りにしている。

高浜小（甲斐）

- ・5年目の若手の女性の先生 昨年同じ学年で、ともに研究を進めてくれている。
- ・私が進めたい研究を理解し、一緒に進めてくれる。時には愚痴も聞いてくれる。

**C：若手の理解者ですね。**

大府中（近藤）

- ・自分は思い立ったら突き進んでしまうタイプなので、ブレーキをかけてくれる教務主任。
- ・あうんの呼吸で、進められている。

豊田東（川本）

- ・50代の副主任 進路指導において絶対の信頼を置いている。

- ・先を見通した進路指導について、頼りにしている。
- ・学年会議に提案する前には、あらかじめその先生に相談している。

**豊川養護（天野）**

- ・研究を一緒に進めている4年目の若手。
- ・若い積極的に意見を出してくれる。とても活動的。
- ・自分の思いをまわりに伝えてくれるし、問いかけに対しても答えてくれる。
- ・子どものために、より良くしようと一緒に話をしていると楽しい。

**C：「相棒」とは、5人のよき理解者であり、信頼関係にあり、きちんと意見を言ってくれる人  
5人のよさを引き出してくれる人ですね。**

**C：③ ちょっと言いにくいかもしれませんが、苦手な存在はいますか。そういった方がいれば、  
どんな対応に心がけていますか？**

**豊川養護（天野）**

- ・若手，ベテランにかかわらず，取組が消極的である先生。
- ・消極的な理由はいろいろあるだろうが，若い先生には問いを投げかけ，言いやすい場・雰囲気づくりをしている。

**豊田東（川本）**

- ・昨年まで7年間一緒に学年だった先生だが，その人間関係があって，今の自分につながっていると感謝している。

**大府中（近藤）**

- ・フットワークが悪い先生に声をかけるのが苦手。
- ・その先生と仲がよい若手を現職教育（校内研修）で同じ班にするなど，いろいろな手でコミュニケーションをとるようにしている。
- ・いやな部分は聞き流す方法を覚えた。

**高浜小（甲斐）**

- ・自分から考えず，ひとに頼りがちで，始めから教えてもらおうという姿勢の先生。
- ・聞いてくると，自分も忙しいので「もう少し自分で考えてから来てくれるかな」と思うが，うまく伝わっていないのだなと反省もする。基本的なことを伝えながら，そういった先生たちも動けるような支援・助言をしなければと思う。

**西尾小（倉知）**

- ・研究関係の指導案など，早めに提出の依頼をしているが，なかなか提出していただけない先生。
- ・二度三度声掛けをするが，それ以上は人間関係壊れそうで・・・。

**C：共通理解は難しいが，5名の先生方は何とか工夫しながらやってみることがわかりますね。**

**C：④ 先生方が現在抱えている課題をキーワードで事前に書いてもらっています。その説明をお願いします。**

**西尾小（倉知）**

- ・研究を進めていく上での「学年間の温度差」。
- ・先生たちが町を歩いて教材を集めてくるように，フットワーク軽く動いてくれる学年ばかりだといいますが。

#### 高浜小（甲斐）

- ・「教師の主体性」を引き出す助言，支援の仕方。
- ・若い先生は指示されたことはできるが，自分からアイデアが出てこない。
- ・自分でいろいろ主体的な姿を見せないといけないなあと思う。
- ・経験をさせる場をつくっていかねばと感じている。

#### 大府中（近藤）

- ・「若手≠少経験者」で表されるように 40 代後半の初任者もいて，そういった先生たちへのアドバイスが課題。
- ・マニュアル的な答えを求めてくる（生徒指導など）。
- ・授業は「こうやりたい」という頑なさもある。

#### 豊田東（川本）

- ・「学年団の協力」
- ・どうしても担任団だけで方向を決めてしまっているところがある（時間の関係で）。
- ・副担任・学年付きの先生方もできる先生が多い。今は，一歩引いてしまっている状態なので，そういった先生方の能力・スキルを生かして学年運営をしたい。

#### 豊川養護（天野）

- ・昨年度の研究の成果を，学校の中で広げていくこと。
- ・中学部，高等部の先生方に理解をしてもらうことが必要。
- ・しかし，そういった場が今はないので，校内の体制づくりが必要か。
- ・それをどうつくっていけばいいのか まとめ役は誰になるのかがわからない。
- ・「管理職との連携」が大切になるのかな。

**C：⑤ これらの課題について，それぞれの先生方からアドバイスをお願いします。**

「管理職との連携」（豊川養護）について

#### 西尾小（倉知）

- ・管理職との連携・・・校長先生がビジョンをしっかりもってみえるので動きやすい。
- ・管理職の先生に，先生の考えを伝えていくのがよいのではと思います。

#### 高浜小（甲斐）

- ・小学校は管理職ととても近い。
- ・高校はちがうことがわかった。

#### 豊川養護（天野）

- ・管理職の先生は，遠くはないけど，近くもないかな。でも校長室に行くのは緊張する。

**C：話をする機会はあるが，広げていくときになかなか・・・ですね。**

#### 大府中（近藤）

- ・生徒のためにいいと思うことはどんどんやれと，器が大きい。信頼が大きい

#### 豊田東（川本）

- ・なかなか自分の考えを校長先生に話をする機会がない。

**C：でも，きっと校長先生は待っているのでは・・・。**

「若手≠少経験者」（大府中学校）について

#### 豊川養護（天野）

- ・自校にもいるが，迷いながら生徒の指導にあたっている様子。

- ・相談にのったり、一緒に考えたりしているが、一人で考えるのは大変なので、「ひとに頼ろう」「お願いしよう」と自分は心がけている。

#### 西尾小（倉知）

- ・日頃のコミュニケーションに心がけていくこと、人間関係を築くことかな。
- ・自分も苦手な先生には、自分から挨拶をするなど、歩み寄ろうとしている。
- ・そういった日々の努力が必要なのかな。

#### 豊田東（川本）

- ・自校にも40代の初任者がいる（社会人経験あり）。
- ・その経験に尋ねることがある（前の会社ではこういうときどうするの？）。

「学年間の温度差」（西尾小学校）について

C：西尾の温度差・・・共通理解に関わることだと思うが、どう図っていくとよいのか。

#### 高浜小（甲斐）

- ・共通理解を図るためには話すしかない。文書で出してもなかなか伝わらない。話す機会をより多くもてるよう心がけている。管理職にも、若手にも。
- ・3部会を立ち上げたのもそう、いろいろ課題はあるが、人ですので、話すことを意識している。

C：話す機会を先生がつくっているということですね。

#### 大府中（近藤）

- ・初任者や少経験者は何が分からないのか、何に困っているのか、分からない。
- ・何がしたいのかと寄り添ってあげると、本音が聞ける。
- ・文書だけでは、意図が伝わらない。

#### 豊川養護（天野）

- ・共通理解のためには、ねらいや頼れるものなど、キーワードが必要では。
- ・自分の場合は、「評価シート」をもとにすべてを話し合ってきた。
- ・最初は意見が違って、みんなで集まって話し合っただけで知恵を出すことによって、互いに近づいていった感じがする。

C：先生の場合は「評価シート」。これを使ったらきつうまくいくだろうと先生は信じてやっているわけですね。まわりの先生にも信じ込ませたの？

「教師の主体性」（高浜小学校）について

C：高浜の「教師の主体性」、これは、けっこうどの問題点にも絡んでいると思うが。どうやって教師集団の主体性を高めていったらいいのか。

#### 大府中（近藤）

- ・若手には、場を与えながら一緒に考えてあげる。ある程度までいったら本人に任せてしまう。
- ・ただ、失敗を恐れてしまうところもあるが、「失敗こそが次へのステップなんだよ」とフォローしている。

#### 高浜小（甲斐）

- ・「主体的」の言葉は、教務が言い続けている。言い続けることも大切だと感じる。
- ・失敗を恐れるのは、主任などベテランにもある。
- ・失敗したことを見せると、もしかしたら「甲斐でも失敗するならやってみよう」と思ってくれるのでは・・・。
- ・ベテランの先生が具体的な姿をどんどん見せることが必要ではないか。

#### 豊田東（川本）

- ・がちがちに固めた提案や、何をいっても変わらない提案・・・自分が担任の時はいやだった。
- ・今年は、「こんなふうにとろうと思ってるんだけど・・・」という提案に心がけている。
- ・がちがちにせず、完成度8割くらいの提案をし、意見をもらって修正して実施している。
- ・そんなことから、いろいろな行事で「やってよかったね」という声が聞こえる。
- ・今いい感じになっている。

C：そう思います。とってはいけませんが・・・

C：そろそろまとめに

大府中（近藤）

- ・いろいろ言う人はいるが、そういう先生を排除するのではなく、なんとか取り入れながら、その人の主張から学ぶこともあると思う。あとは聞き流すことも。
- ・学年の輪を大事にすることが、結局子どもにつながっていく。
- ・自分は苦手な先生にわざと頼むことがある。「え～」といいながら動いてくれる。

C：「苦手な存在」・・・マイナス要素だけでなく、自分を変えてくれる存在になる。

そういった存在を取り入れてどうチームをつくるか、というところで先生方から話を聞いた。この後は、課題はいろいろあるが、「どう共通理解を図っていくのか」「どう主体的な組織にしてい  
くのか」というテーマが共通していたと思われるので、それらについて会場の皆さんにも考えて  
いただきたいと思う。

C：パネリストの5名の先生方に、拍手を。（会場拍手）